第８節　足太陽膀胱経（67穴）

The Urinary Bladder Meridian of Foot-Taiyang(B)

Ⅰ　経　　脈

【主治概要】

眼科疾患，頭・項・背・腰・仙骨・下肢後面の病症および精神神経系疾患，癲癇など。背部第１側線上の「背俞穴」は，それぞれが関連する臓腑の病症及び臓腑が関係する組織・器官の病症を治療する。第２側線のツボは，その局部の病変を治療するし，関係する内臓の病も治療する。ただし，刺針の深さには注意を要する。

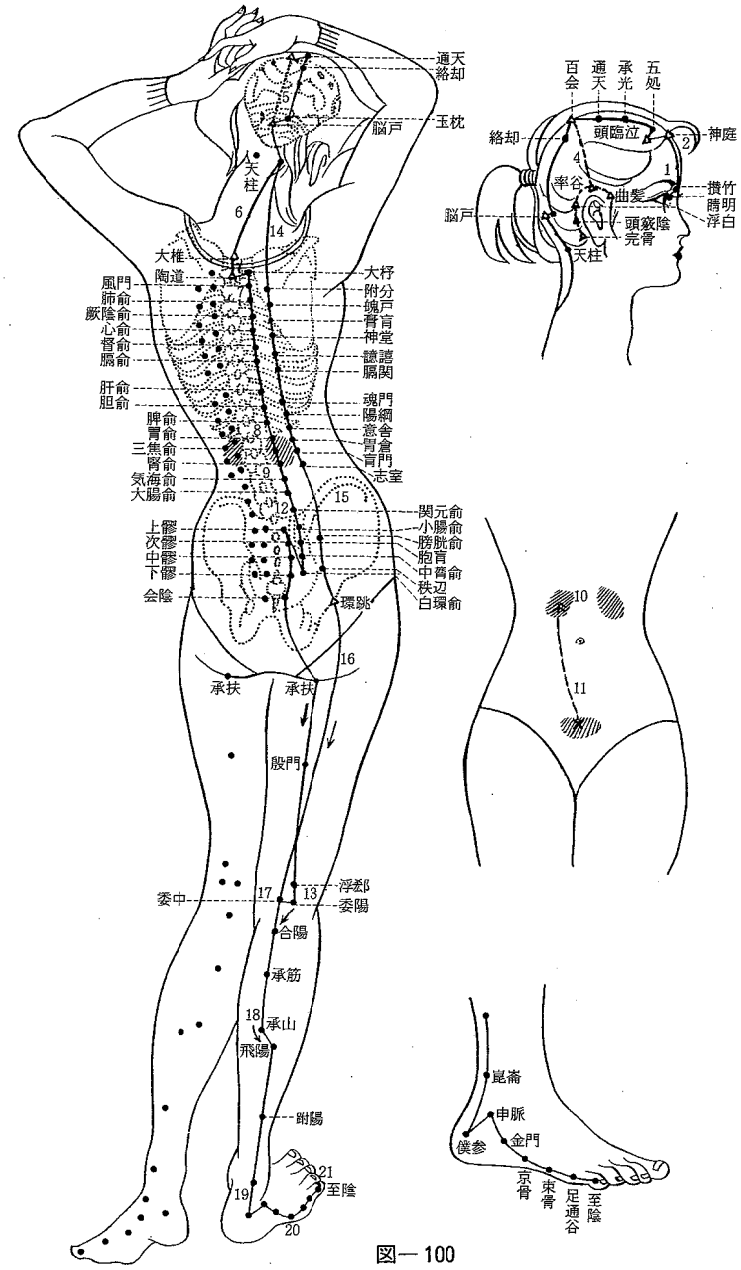
【経脈の循行】（図 100）

1. 目の内眼角（睛明―膀胱１）に起こる。
2. 前頭。
3. 頭頂（百会―督20）に交会する。
4. 頭頂部の分支。

頭頂よりこめかみに到る部分

頭頂部へ直行する脈

5. 頭頂より内に入り脳に連絡する。
6. 戻って２つに分かれ，頸の後面へ下行する。
7. 肩甲部の内側に沿って，脊柱を挾む。
8. 腰部に到る。
9. 背側の筋中より内腔に入る。
10. 腎臓に絡う。



図―100

11.　膀胱に属す。

腰部の分支

12.　腰部より分かれ出て，下へ向かい殿部を過ぎる。

13.　膝窩の中に入る。

後頸の分支

14.　後頸より分かれ出て，肩甲部の内縁を過ぎて直っすぐ下る。

15.　殿部（環跳―胆30）を経て下行する。

16.　大腿の外側後面に沿う。

17.　腰部より下ってきた支脈と膝窩内で会合する。

膝窩より直行する脈

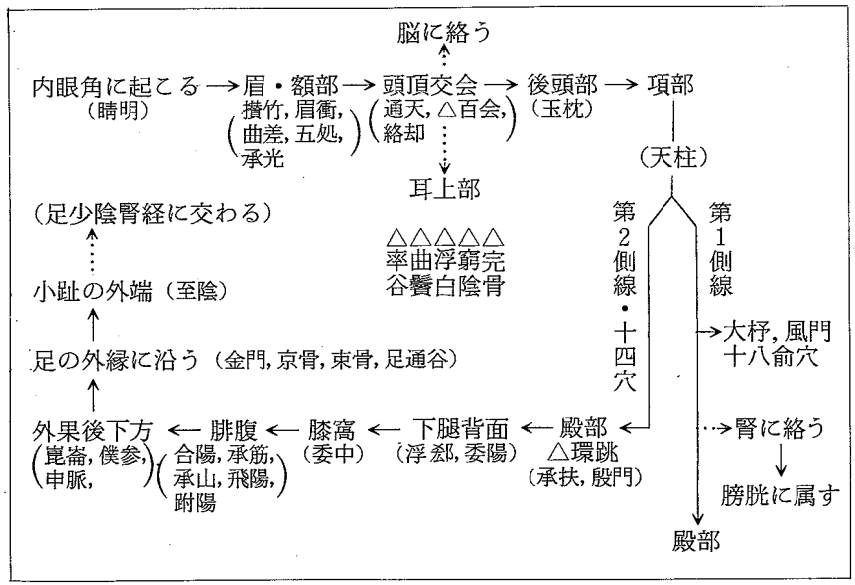
18.　膝窩下より腓腹内を通過する。

19.　外果の後面に出る。

20.　第５中足骨粗面に沿う。

21.　小趾の外側端（至陰―膀胱67）に到り，足少陰腎経と連結する。

【経脈循行図】



【連係臓腑】　膀胱に属し，腎に絡い，脳と体腔内の臓腑と連係する。

【通過器官】　眼，鼻。

【交会経穴】　頭臨泣（胆経15），率谷（胆経８），天衝（胆経９），浮白（胆経10），頭竅陰（胆経11），完骨（胆経12），曲鬢（胆経７），環跳（胆経30），神庭（督脈24），百会（督脈20），脳戸（督脈17），風府（督脈16）大椎（督脈14），陶道（督脈13）。

Ⅱ　経　　穴

本経は左右各67穴。うち49穴は頭・顔・頸部と腰背部の督脈の両側に分布している。その他の18穴は下肢の後面と足の外側に分布している。最初のツボは睛明，最後のツボは至陰。

1.　睛　明（せいめい）　B_1

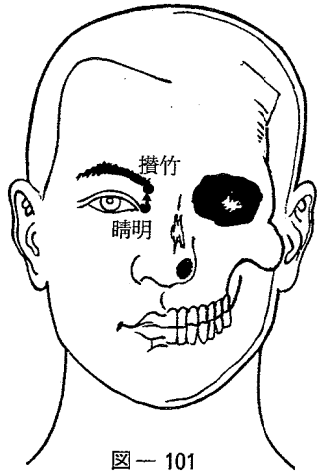
【穴名の由来】「睛」とは目のことで，「明」は光明とか明るいことを指す。本穴には視力をはっきりさせる療効があるため，睛明と名づけられた。

【出典】『甲乙』：「目の内眦の外に在り」

【別名】目内眦（『素問・気府論』王冰注），涙孔（『甲乙』），涙空（『聚英』）

【位置】内眼角の上方１分。**（図101）**

【解剖】眼窩内縁で，内側眼瞼靱帯中にありその深部は眼球直筋。内側眼瞼動・静脈と滑車上・下動静脈が分布し，深層上部には眼動静脈の本幹がある。滑車上・下神経が分布し，深層は眼神経の分枝が，上方には動眼神経が通っている。



図―101

【作用】明目，祛風。

【主治】眼の充血・腫脹・疼痛，迎風流涙，眼の掻痒感，夜盲症，色盲。

【操作】眼窩の内縁に沿って直刺で0.3寸。強雀啄，捻針をしてはならない。

【針感】局部にだるさ，はれぼったさ。

【配穴】視神経萎縮，網膜出血，緑内障……肝俞・腎俞・風池・太陽・角孫。
眼の充血・腫脹・疼痛……風池・太陽・攢竹・糸竹空・陽白・光明。

【備考】禁灸穴。「手，足太陽，足陽明の会」(『甲乙』)，「手足太陽，手足少陽，足陽明の五脈の会」(『銅人』)，「手足太陽，足陽明，陽蹻，陰蹻の五脈の会」(『素問・気府論』王冰注)，「足太陽，督脈の会」(『奇経八脈考』)

2. 攢　竹（さんちく）　B_2

【穴名の由来】「攢」は集合するという意味があり，「竹」は眉毛の形が竹の葉に似ているので用いられ，攢竹と名づけられた。

【出典】『甲乙』:「眉頭の陥たる者の中に在り」

【別名】眉頭（『素問・骨空論』王冰注），員柱，始光，夜光，明光（『甲乙』），光明（『銅人』）

【位置】眉毛の内側端，眼窩上切痕のところ。(図102)

【解剖】前頭筋，皺眉筋があり，前頭動・静脈がある。前頭神経の内側枝が分布している。

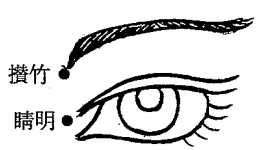
【作用】祛風，泄熱，明目。

【主治】頭痛，眩暈，涙骨部の疼痛，視力低下，迎風流涙，眼の充血・腫脹・疼痛，眼瞼痙攣。

【操作】下方または外方へ横刺で0.3～0.5寸。

【針感】局部にはれぼったさ，痛感。

【配穴】急性結膜炎，電気性眼炎……風池・太陽・睛明・糸竹空・合谷



図―102

視神経萎縮，網膜出血……肝俞・腎俞・風池・角孫・太陽・光明。

【備考】禁灸穴。

3. 眉　衝（びしょう）　B_3

【穴名の由来】「眉」は眉頭を指し，「衝」は衝動とか「～に対する」という意味を持つ。本穴は眉頭の直上の髪際にあり，眉に対している。また眉のうごきや前頭筋のうごきは，この位置まで到達するので，眉衝と名づけられた。

【出典】『脈経』より。
『聖恵』:「両眉頭端の直上髪際を入る」

【別名】小竹（『資生』）

【位置】眉頭の直上，神庭と曲差の間。(図103)

【解剖】前頭筋があり，前頭動・静脈がある。前頭神経の内側枝が分布している。

【作用】祛風，通竅，清神。

【主治】頭痛，眩暈，癇症。

【操作】横刺で0.3～0.5寸。

【針感】局部にはれぼったさ，痛感。

【配穴】鼻閉，頭痛……上星。

【備考】禁灸穴。

4. 曲　差（きょくさ）　B_4

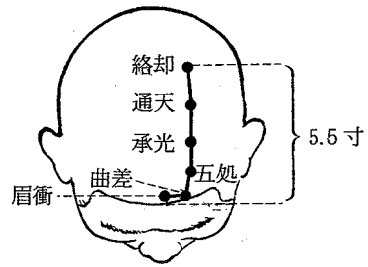
【穴名の由来】「曲」とはまがることや彎曲のこと。「差」とは不ぞろいとか食いちがいを指す。本穴は眉衝の横で外側にまがったところにあり，しかも髪際第1側線上の他のツボとは少しずれた位置にあるため，こう名づけられた。

【出典】『甲乙』:「神庭の両傍一寸五分，髪際にあり」

【別名】鼻衝（『甲乙』）

【位置】神庭の両側１寸５分。（図 103）

【解剖】前頭筋があり，前頭動・静脈がある。前頭神経外側枝が分布している。



図－103

【作用】祛風，通竅，清神。

【主治】頭痛，眩暈，眼部痛，鼻閉，鼻出血。

【操作】横刺で 0.3 ～ 0.5 寸。

【配穴】鼻閉，鼻出血……上星・合谷。

【備考】禁灸穴。

5.　五　処（ごしょ）　B_5

【穴名の由来】足太陽経の５番目のツボであるので，こう名づけられた。

【出典】『甲乙』:「督脈の傍，上星を去る一寸五分に在り」

【別名】巨外（『入門』）

【位置】曲差の直上，髪際を１寸入る。（図 103）

【解剖】前頭筋，前頭動・静脈がある。前頭神経の外側枝が分布している。

【作用】祛風，通竅，清神。

【主治】頭痛，眩暈，癇症。

【操作】横刺で 0.3 ～ 0.5 寸。

【配穴】頭痛……合谷・百会。

【備考】禁灸穴。

6.　承　光（しょうこう）　B_6

【穴名の由来】本穴は頭頂にあって，天の光を承受し，眼疾患を治し，視力を改善して病人に光明をもたらすので，こう名づけられた。

【出典】『甲乙』より。

『銅人』:「五処の後一寸五分」

【位置】五処の後方１寸半。（図 103）

【解剖】帽状腱膜の中にある。前頭動・静脈，後頭動・静脈がある。前頭神経の外側枝と大後頭神経の吻合枝が分布している。

【作用】祛風，明目，清神。

【主治】視覚不鮮明，鼻閉，多量の鼻汁，目まい，頭痛，呕吐，胸部煩悶感。

【操作】横刺で 0.3 ～ 0.5 寸。灸も可。

【配穴】眼疾患……行間・光明。

【備考】『甲乙』では「五処の後二寸」，『千金』では「五処の後方一寸」または「一寸半」としている。しかし『銅人』より『資生』『発揮』『大成』『図翼』『金鑑』まですべての書が「五処の後一寸五分に在り」と述べているので，これに従った。

7.　通　天（つうてん）　B_7

【穴名の由来】本穴は身体の１番上にあって天の気に通じており，また肺の気の通じないもの，鼻閉，嗅覚のないものを治すので，この名がつけられた。

【出典】『甲乙』:「承光の後一寸五分」

【別名】天臼（『甲乙』），天白（『外台』），天伯（『銅人』）

【位置】承光の後１寸５分で，正中線の両側１寸５分。（図 103）

【解剖】帽状腱膜があり，浅側頭動・静脈と後頭動・静脈がある。大後頭神経の枝が分布している。

【作用】祛風，通竅，清神。

【主治】頭痛，眩暈，鼻閉，鼻出血，鼻炎。

【操作】横刺で0.3～0.5寸。灸も可。

【配穴】頭痛……百会・風池・太陽・合谷。

鼻疾患……風池・印堂・上星・迎香・合谷。

【備考】灸1～3壮。温灸5～10分間。

8. 絡　却（らっきゃく）　B_8

【穴名の由来】「絡」は微細な絡脈とか結膜炎により充血した血絡を指す。「却」は退却のことを指す。本穴は眼の充血した血絡を消すことができるので，こう名づけられた。

【出典】『甲乙』より。

『千金』:「通天の後一寸半」

【別名】強陽，脳蓋（『甲乙』），絡郄（『入門』）

【位置】通天の後1寸半，正中線の両側1寸半。（図104）

【解剖】後頭筋の停止の位置にある。後頭動・静脈の枝があり，大後頭神経の枝が分布している。

【作用】祛風，清頭目。

【主治】眩暈，眼疾患，耳鳴，癲狂。

【操作】横刺で0.3～0.5寸。灸も可。

【配穴】頭重[33]，耳鳴……百会・風池・耳門・聴会・聴宮・後谿・腎俞。

【備考】『甲乙』では絡却は「通天の後一寸三分に在り」と述べている。『千金』『銅人』『資生』『発揮』『大成』『図翼』『金鑑』では全て「通天の後一寸半」と述べている。ここでは後者の説を取った。

灸3壮。温灸5～15分間。

9. 玉　枕（ぎょくちん）　B_9

【穴名の由来】「玉」は肺の金を指す。「枕」は枕骨〔後頭隆起〕を指す。昔の人は枕骨を「玉枕骨」と呼んでいた。本穴は鼻閉を治すが，鼻は肺の竅であるので，こう名づけられた。

【出典】『甲乙』より。

『銅人』:「絡却の後一寸五分に在り。脳戸の傍一寸三分，枕骨の部で髪際を入る三寸」

【位置】脳戸の側1寸3分，後頭隆起上縁の外側。（図104）

【解剖】後頭筋があり，後頭動・静脈がある。大後頭神経の枝が分布している。

【作用】祛風，清頭目。

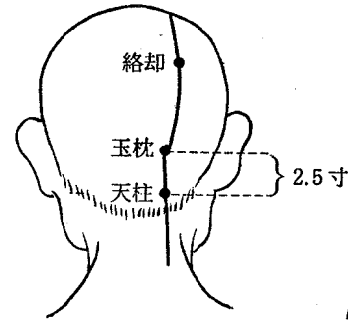
【主治】頭痛，眼痛，鼻閉。

【操作】横刺で0.3～0.5寸。灸も可。

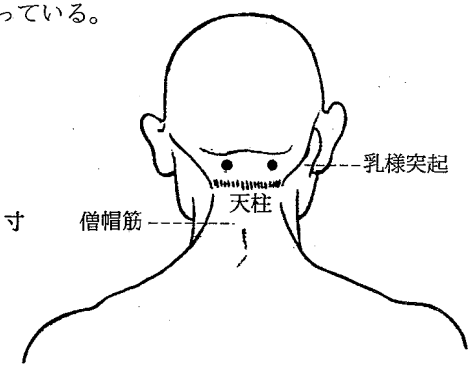
【配穴】頭痛……風池・百会・合谷。

眼の充血・腫脹・疼痛……風池・睛明・攢竹・太陽・太衝。

【備考】『素問・気穴論』には「枕骨二穴」の語が出てくるが，玉枕の名は出てこないし，その部位も定かではない。『甲乙』には「絡却の後七分，脳戸の傍一寸三分，枕骨の肉の盛上り部で，髪際を入る三寸」とある。『千金』では「絡却の後七分半，脳戸の傍一寸三分，枕骨の肉の盛上り部の上，髪際を入る三寸」とあって，その説は一致しない。その後の『銅人』では「絡却の後一寸五分，脳戸の両傍一寸三分，枕骨の肉の盛上り部で，髪際の上三寸」と述べている。『資生』『発揮』『大成』『図翼』は全てこれに従っている。



図－104



図－105